

平成29年度 学校自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
---------------------------	--	-----------------	--

評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	アクティブラーニングに関する研修に全教科の教員を派遣するとともに、ICT機器を活用した「学びの文化祭 in Yonago」を開催して、授業改善研究を推進した。	学力の向上	組織的、計画的に授業改善を推進する	「学びの文化祭 in Yonago」によるアクティブラーニングの推進 ICT機器の活用 授業公開週間における授業公開の促進と授業評価アンケートの活用	B	・3回目となる「学びの文化祭 in Yonago」でICT機器の活用とアクティブラーニングを推進した。 ・ICT機器活用ワークショップを開催し、各教科での活用を促進した。	B
			系列の特色化と資格取得を促進する	各系列ごとの学校独自事業の充実 高度資格取得へ向けた受験指導の充実	B	・学校独自事業は新規事業を含め、17本の事業を計画どおり実施した。 ・情報処理検定1級合格者2名、ビジネス文書実務検定1級合格者4名など例年より多く合格し、高度資格受験者も増加した。	B
		思考力、判断力、表現力の更なる向上	テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める	地域経済分析システム(RESAS)を活用した「米子市中心市街地活性化計画」の構築と地方創生アイデアコンテストへの応募	B	・RESASを活用しバージョンアップを図った「米子市中心市街地活性化計画」を策定し、地方創生アイデアコンテスト、高校生ビジネスグランプリに応募した。	B
		遅刻者数は対前年度65%減少した。「無言掃除」や届出の徹底を含め、更に規範意識を向上させる必要がある。より一層主体的に活動する意欲を高める必要がある。	基本的な生活習慣の定着	遅刻者数1割減を目指す 規範意識の向上と掃除の徹底	B	・対前年度比40%減となった。 ・問題行動が発生したが、生徒は全体的に自律している。	A
生徒の主体的活動の推進(国際交流・環境保全活動・部活動)	生徒の各種活動への積極的参加を促す		C	・音楽を流すことで掃除時間を明確化し、校内美化は徹底されたが「無言掃除」は徹底できていない。	B		
	生徒会執行部による各種自主的活動の充実		B	・生徒会活動においては学校行事のみならず地域貢献活動等、多方面で積極的に活動した。	B		
	部活指導の充実 アメリカSTA高校・韓国造形芸術高校への交流派遣 TEAS活動の推進、環境講演会の実施		B	・弓道部女子が中国大会優勝を果たした。 ・韓国造形芸術高校との交流が諸事情により中止となったが、江原道との交流を実施し、アメリカSTA高校交流への参加希望者は増加した。 ・TEAS活動は環境委員がゴミの計量などの活動を継続し、環境講演会を実施し推進した。	B		
	3 自己実現のための進路指導の充実	産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。	キャリア教育の発展	教員の指導力向上と外部指導者の活用	総合学習における各種講演会の充実と系統的なキャリア教育の構築 学習成果発表会に向けた生徒支援の充実	B	・進路講演会や社会人講話などで多方面の外部指導者を活用した。 ・学習成果発表会は手厚い指導により、昨年を上回るより充実した発表となった。
進路指導の充実			生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる 看護系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	B	・進路指導部と担任の連携強化で、大学進学者数及び国公立大学進学者数が過去最高となり、就職希望者は年内100%内定した。 ・新規で独自に看護の職場体験事業を実施した。	A	
4 地域との連携による学校づくり	地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。	地域のニーズに応じた地域貢献	文化芸術活動の拠点化を通じ、地域のニーズに積極的に応える	漫研・ダンス・演劇・吹奏楽等の各種イベントの開催 「花壇用草花植栽活動」による地域貢献の推進	A	・地域学校協働活動推進による文部科学大臣表彰を受賞した。 ・積極的な植栽活動によって地域貢献を果たした。	A
		積極的な社会参画と情報発信	社会につながる教育活動を推進する	「高校生出前キャリアガイダンス」による情報発信 総合美術展の開催による情報発信	B	・「高校生出前キャリアガイダンス」は8校で実施し、積極的な情報発信を行った。 ・総合美術展は300人の来場者を記録し芸術拠点校としての情報発信ができた。	B

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要